

# オープンキャンパスのご案内

山大音研では来たる8月9日の午後1時から4時まで、教育学部音楽棟にてオープンキャンパスを開催します。予定している内容は次のとおりです。

## ◎カリキュラム説明

山大音研は、小学校や中学校や高校で音楽を専門に教える教師を育成しています。

オープンキャンパスでは、大学4年間で習得することを、大学での授業の様子を映像で見ながら詳しく説明し、みなさんが疑問に思っていることにわかりやすくお答えします。



(教育実習にて)

たとえば……

- ・音楽教師に必要とされる基礎基本はどのようにして身につけるのか。
- ・教育実習(=初めての教師体験)に向けてどのような学習をするのか。
- ・教員として身につけるべき、指導実践における専門性はどのように磨かれるのか。
- ・ここ数年の卒業後の進路はどうなっているのか。

——などなど

## ◎公開レッスン(声楽・ピアノ)

山大音研では、それぞれの学生が専門とする音楽の実技をより高度なものにするために、実技レッスンにも力を入れています。オープンキャンパスでは、公開レッスンとして、ふだんどのようなレッスンをおこなっているかを見ていただけます。

声楽のレッスンでは言葉を表現することに重きを置いています。公開レッスンは山田耕筰の歌曲を見ていただきます。山田耕筰が日本語のアクセントにこだわって作曲した作品をどう解釈するのか、またその作品を表現するために声とテクニックをどう使うのかがとても重要です。レッスンでは教員と学生が声とテクニックを駆使する方法を共に探求します。週に1回のレッスンで教員から出される「もっとこうしてみて」というアドバイスに応えられるよう、学生は日々練習を積み重ねています。その過程で、成功体験を5回中1回から3回へ、さらには5回中5回へと増やしていくことにより、必要なテクニックを身体に覚えさせていきます。試行錯誤を繰り返すことは作品を表現するための引き出しを増やすことにもつながります。そうした引き出しが教員となった時に教育現場で非常に役に立つのです。(文責：林満理子)





「楽譜を読む」ということ、これはただ単に、音、リズム、強弱、アーティキュレーションなど、譜面上に書かれてあることを見逃さずに読み取るだけではありません。そこから作曲者が何を伝えたいのか、或いは何を感じ取ってほしいのかということを読み取るのが重要で、それを音で表現していくことが「演奏」につながります。「楽譜を読む」ということは尽きることはない作業なのです。ただ音を並べて弾く、という行為は演奏ではありません。

公開レッスンでは、ショパンの練習曲を採り上げます。各曲には複数の練習課題が盛り込まれていますが、それと同時に「練習曲」という域を超えて、ショパンの音楽の芸術性をも余すところなく学ぶことができる作品群となっています。そしてその感受に到達するためには、柔軟な手首・腕など身体の使い方は勿論のこと、息遣いにも細心の注意を払い、もう一度基礎を見つめ直すのが大切なのですが、とりわけ「楽譜を読む」ことが重要で、そのうえで奏でた音を身体で聴く——こうした地道な訓練が不可欠なのです。（文責：友清祐子）

### ◎演奏発表

独唱、二重唱、ピアノ独奏、ピアノ連弾、管楽器アンサンブル

### ◎座談会

少人数のグループに分かれて、在学生とのフリートークを予定しています。打ち解けた雰囲気の中かで、学習環境や入試への準備、あるいは大学生活の様子など、どんな質問にもお答えします。



みなさんのお越しをお待ちしています！

お問い合わせは下記メールアドレス（斎藤）までお願いいたします。

[mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:mnsaito@yamaguchi-u.ac.jp)